



配信先：大阪科学・大学記者クラブ、文部科学記者会、科学記者会

2025 年 11 月 19 日

大阪公立大学

学生同士の評価は公平か？ 英語プレゼンにおける学生間評価の信頼性を分析

<ポイント>

◇英語プレゼンテーションにおけるピア評価※¹において、友情関係による評価への影響は確認されたが、その程度は小さい。

◇女性の評価者は、男性よりも若干高めの評価をつける傾向がある。

<概要>

学習者中心の教育アプローチが重視される中、教育現場での英語プレゼンテーション評価において、学生同士によるピア評価が注目されています。しかし、ピア評価には友情関係などのバイアスが入り込む可能性があり、公平性や妥当性を損なう懸念があります。

大阪公立大学大学院現代システム科学研究科の田中 美津子准教授は、友情関係がピア評価にどの程度影響するか、またその影響が評価者の性別や英語プレゼンテーション能力によって異なるかを、大学1年生148人を対象に検証しました。

その結果、学生は友人に対してわずかに高めの評価を与える傾向が見られたものの、その影響は限定的であることが明らかになりました。また、性別によって評価のつけ方に違いが見られた一方で、評価者自身の英語プレゼンテーション能力の違いは、評価に影響を与えないことが明らかとなりました。

本研究は、ピア評価に内在するバイアスの理解を深め、教育現場におけるより公平で効果的な評価の実践に資する知見を提供することが期待されます。

本研究成果は、2025 年 10 月 10 日に国際学術誌「Assessment in Education: Principles, Policy & Practice」にオンライン公開されました。

<掲載誌情報>

【発表雑誌】Assessment in Education: Principles, Policy & Practice

【論文名】Friendship bias in peer assessment of EFL oral presentations

【著者】Mitsuko Tanaka

【掲載 URL】<https://doi.org/10.1080/0969594X.2025.2570248>

<田中 美津子准教授のコメント>

ピア評価には、公平性や包括性を高めるだけでなく、他者を評価する中で自らの課題に気づき、学習改善につなげられるという教育的な利点があります。今後も、より効果的な活用に向け、多様な観点から検討を進めていきたいと考えています。

<研究の背景>

英語プレゼンテーションの評価では、評価者の価値観や好みによって得点が左右される可能性があり、公平性を担保するためには複数人による評価が望ましいとされています。しかし、教育現場で複数の評価者を確保することは容易ではありません。そのため、学生同士が互いに評価し合う「ピア評価」が、多様な視点を取り入れる方法として注目されています。一方で、評価者の特性や人間関係などが得点に影響し、信頼性を損なう可能性も指摘されています。したがって、ピア評価に内在するバイアスを理解し、その影響を抑制することは、より公平で妥当な評価を実現する上で重要だと考えられます。

<研究の内容>

本研究では、英語プレゼンテーションにおけるピア評価に影響を及ぼす可能性のある要因のうち、特に「友情バイアス」の影響と、その影響が評価者の性別や英語プレゼンテーション能力によって異なるかについて、大学1年生148人（男性：102人、女性：46人）を対象に検証しました。まず、多相ラッシュモデル※2により評価の質を検証した結果、ピア評価は概ね一貫しており、信頼性が確認されました。さらに、混合効果モデル※3を用いて分析したところ、友情関係は得点に一定の影響を及ぼすものの、その程度は限定的であることが示されました。また、女性は男性より全体的に高い点数をつける傾向がみられましたが、これは特定の友人を優遇した結果ではなく、評価全体が寛容になる傾向によるものであることが明らかになりました。一方で、評価者自身の英語プレゼンテーション能力によって、評価が寛容または厳格になるといった傾向は確認されませんでした。

<期待される効果・今後の展開>

本研究は、ピア評価の信頼性に関する理解を深め、教育現場での活用を促進するうえで有益な知見を提供します。一定のバイアスは確認されたものの、概ね信頼性が認められたことから、適切に運用すれば教室での評価として活用できる可能性が示唆されました。今後は、他の要因にも着目し、バイアスの発生メカニズムを明らかにすることで、より公正で包括的な評価システムの構築を目指します。

<資金情報>

本研究は、JSPS 科研費（JP20K13133）の助成を受けたものです。

<用語解説>

※1 ピア評価：学生同士が互いの学習成果や発表を評価し合う方法。

※2 多相ラッシュモデル：テストや評価に関わる複数の要素（受験者、評価者、課題など）を同時に分析して、より公平なスコア推定を可能にする統計モデル。

※3 混合効果モデル：「全体に共通する影響（固定効果）」と「個人やグループごとの違い（変量効果）」を同時に分析できる統計モデル。

【研究内容に関する問い合わせ先】

大阪公立大学大学院現代システム科学研究科・
国際基幹教育研究院
准教授 田中 美津子（たなか みつこ）
TEL：072-254-8409
E-mail：mtanaka@omu.ac.jp

【報道に関する問い合わせ先】

大阪公立大学 広報課
担当：久保
TEL：06-6967-1834
E-mail：koho-list@ml.omu.ac.jp